

No.29

July
2005



NSnet News

理事長からのメッセージ

第72～74回安全キャラバンの実施

第45～46回相互評価の実施

平成17年度定時総会、トップセミナーを開催

理事長からのメッセージ

このたび、「日本原子力技術協会」の理事長に就任した石川迪夫です。

顧みますと、原子力産業界が「重大な岐路である」との共通の認識にたつて、その総意のもとで原子力産業界の活性化を図る切り札として、「日本原子力技術協会」設立の提案が行われ、精力的に準備が進められてきたわけであります。その中で、発起人の皆さまから、理事に就任するようにとの熱意あるご勧誘をいただき、また、我が国の原子力産業を何としても再生し、世界のトップレベルに引き上げたいという意気込みに共感を覚えました。

私は、原子力に永年携わってきた者として、理事を引き受ける決意をした次第であります。

さて、本協会の使命は①各種運転情報の収集・分析・評価、②安全文化の推進（会員相互のピアレビューの実施等）、そして③民間規格の整備支援の三本柱を中心に、事業者の自主保安活動の向上を支援していくことにあります。具体的には、実行に結びつく勧告や提案を、各種情報データの合理的・科学的分析に基づきタイムリーに発信することであります。さらに、第三者的立場にたつて、事業者のみならず、規制当局に対しても必要な意見を具申するという組織を目指します。

また、協会活動の情報公開ならびに第三者から構成される評議員会の設置を通じて、組織運営の透明性を確保していきたいと考えています。

このような、われわれの活動の基盤は情報とデータであります。これを支えるのはやはり「ひと」であります。現場から得られた情報とデータに対し、技術者としての正義と誇りをもって、謙虚にかつ熱意をこめて取り組み、「原子力産業の安全と運営に役立つ活動」を展開し、我が国の原子力産業界を活性化できるような組織にしたいと考えています。

具体的には、NSネット（ニュークリアセイフティネットワーク）や電力中央研究所原子力情報センターの事業を継承するだけでなく、生きた活動としていくための必要な改善を加え、新しい事業も含めてさらに発展させるために、職員一同、全員が気持ちを新たに、使命の大きさとやりがいを感じ、力を合わせてがんばっていききたいと思っています。

本協会は本日スタート台に立ったところであります。

一步一步着実に事業を進めるとともに、原子力産業界のみならず他の産業界にとってもひとつの「道しるべ」となるような良い仕事をしていく協会を目指していきたいと考えています。

皆様方の今後一層のご支援、ご協力、ご指導をお願いし、新協会の設立に当たってのご挨拶とさせていただきます。



▲ 石川理事長

平成17年4月

日本原子力技術協会
理事長 石川 迪夫

第72～74回安全キャラバンの実施

今回は、第72～74回の安全キャラバンの中から安全講演会について紹介します。

安全キャラバンの詳しい内容はホームページ (<http://www.gengikyo.jp>) をご覧下さい。

回	実施時期	会員名・事業所名	安全講演会講師	講演テーマ
72	H17.2.28	北陸電力(株) 志賀原子力発電所	熊本大学 教育学部附属教育実践総合センター 教授 吉田 道雄 氏	「組織の安全管理と人間理解－ヒューマン・エラーのグループ・ダイナミックス－」
73	H17.5.13	九州電力(株) 川内原子力発電所	日本ヒューマンファクター研究所 品質保証研究室長 渡利 邦宏氏	「ヒューマンファクターと安全の考え方」
74	H17.6.16	住友金属鉱山(株)エネルギー・環境事業部技術センター	北海道電力(株)原子力訓練センター所長 大塚 英司氏	「泊発電所における安全確保への取り組み」

● 北陸電力株式会社 志賀原子力発電所 安全キャラバン＜安全講演会＞

- 機器や設備の設計と運転は、Fail-safe で、それを運用する人間は Feel-unsafe でいきたい。つまり「何かおかしい」と感じたら、それは「危険ではないか」と考える感受性が求められているのである。自分の思い過ごしや間違いなどといった判断はしない方がいい。
- 安全に関する「知識」がなければ、安全を確保しようがない。しかし、「知識」があっても事故は起こる。そこに、「知識」を生かす「意識」が必要であり、さらに「意識」が「行動」になってはじめて安全が実現する。
- 間違ったら謝ることに快感を覚えるような組織・環境が大事だ。こうした職場風土がなければ、ミスや事故につながるヒヤリハット体験も表に出ない。
- 組織を脅かす悪魔の法則が5つある。(「慣れ」、「経験の誤った一般化」、「記憶の加工・物語づくり」、「マニュアル違反でも事故らない」、「マニュアルを守っても事故る」。)



▲ 吉田 道雄 氏

● 九州電力株式会社 川内原子力発電所 安全キャラバン＜安全講演会＞



▲ 渡利 邦宏 氏

- 安全というものは存在しない。存在するのは社会が許容する危険であり、それが許容の限度を超えた時事故となる。その許容レベルは曖昧で時間と共に変動し、また技術者と社会で異なる。
- 安全を考える上で人間の情報処理の特徴を知る必要がある。人間は、入力情報の検知能力は高いが、中枢処理能力は低い上に単一情報処理系である。また、処理能力は意識水準により大きく異なり、適度の緊張がある場合がエラーの発生確率を極小化できる。しかしその状態は長続きしない。パイロットの場合、クリティカルイレブンミニッツというのがあって、離陸3分、着陸8分、合計11分が最も集中を必要とする時間である。
- 人間とは最初からエラーをしようとして行動するものではなく、エラーは人間の自然な行動の一部であるとの認識、前提でエラーの発生をできるだけ少なくする工夫が必要である。

● 住友金属鉱山(株) エネルギー・環境事業部 技術センター 安全キャラバン〔速報〕

講演テーマ：「泊発電所における安全確保への取り組み」

安全講演会では、北海道電力株式会社 泊原子力事務所 原子力訓練センター所長 大塚 英司氏より、泊発電所で当たり前のことをしっかりやるという観点から、どのように安全を確保してきたか具体的な取り組みについてご講演いただきました。



▲ 講演会の様子

第45回相互評価の実施

ピアレビューの概要及び報告書の全文はNSネットのホームページ (<http://www.gengikyo.jp>) に掲載していますのでご覧ください。

回	実施時期	会員名・事業所名	所在地	施設分類
45	H17.3.2~3.4	ニュークリア・デベロップメント(株)	茨城県 東海村	燃料加工施設

● 第45回ピアレビューの主な結論

- 今回のレビュー結果を総括すると、原子力安全の面で直ちに改善措置を施さなければ、重大な事故の発生に繋がるような項目は見出されなかった。
- 社方針、社員行動指針、コンプライアンス指針及び環境方針を定め、「原子力の安全確保を全てに優先させる」ことを明記している。これらの方針に基づいた幅広い積極的な安全活動を実施していることを確認した。
- 今後も現状に満足することなく、なお一層の安全文化の向上を目指して更なる自主努力を継続していくことが望まれる。



▲ ニュークリア・デベロップメント(株)



▲ レビュー状況

〈 良好事例 〉

- コンプライアンス向上に向けた積極的な取り組み
- 技術伝承を目的とした「伝承電子化活動 (e-伝活動)」
- 指導員による協力会社社員へのOJT教育評価と今後の取り組みへのフィードバック
- 「事前安全検証活動 (設備KYK/試験KYK)」の効果的改善と活動の強化

〈 改善提案 〉

- 安全最優先の観点からの表彰制度の強化
- 教育体系の整理とスキル・ディベロップメントへ向けた取り組み
- 「事前安全検証活動」(設備KYK/試験KYK)の是正処置結果の記録上の改善

第46回相互評価の実施

回	実施時期	会員名・事業所名	所在地	施設分類
46	H17.4.6～4.8	日本核燃料開発(株)	茨城県 大洗町	燃料加工施設

●第46回ピアレビューの主な結論

- 今回のレビュー結果を総括すると、原子力安全の面で直ちに改善措置を施さなければ、重大な事故の発生に繋がるような項目は見出されなかった。
- 基本理念を安全最優先とし、①トップとしての方針を提示し、情報の共有化を図る、②体系的な仕組みを作る、③仕組みを実効的に運用する、の3点を具体化のための方策として掲げている。また、コンプライアンスに関しても、社長が折に触れメッセージを発信するなど、原子力安全に高い意識を持った活動が展開されていることを確認した。
- 今後も現状に満足することなく、なお一層の安全文化の向上を目指して更なる自主努力を継続していくことが望まれる。



▲日本核燃料開発(株)



▲レビュー状況

〈 良好事例 〉

- 「NFD行動規範」の作成と全社員への配布
- 安全管理に係る全規定類のLAN上への掲載
- プロジェクト記録ファイルによる研究・開発業務のノウハウの伝承

〈 改善提案 〉

- 協力会社社員への「携帯用カード」の配布拡大
- コンプライアンス教育の定期的な反復
- 『安全作業基準』の安全上重要な注意事項の記載方法の改善

平成17年度定時社員総会を開催

平成17年6月23日、東京都港区三田NNビルにおいて、平成17年度定時社員総会を開催しました。

総会では、平成17年度決算書(案)承認の件及び平成17年度事業計画及び収支予算書(案)承認の件などについて審議され、承認されました。

NS ネット事業部の平成17年度の主な活動として次の活動が承認されました。

- (1) ピアレビュー活動（電力および日本原燃を対象とした改良ピアレビューの試行・評価）
- (2) 安全文化の普及活動（トップセミナー、管理者セミナー、安全キャラバンの実施）
- (3) 原子力安全に関する情報交換・発信活動（会員および一般向けホームページやメールマガジンによる情報提供）



▲ 総会の様子

平成17年度トップセミナーを開催

上記総会の終了後に会員のトップ及び幹部を対象とした特別講演会（トップセミナー）を開催しました。

この度は協会の設立を記念して米国原子力発電運転協会（INPO）のバーグ氏（Executive Vice President）を招待し「INPOの生い立ち、活動状況及びJANT Iへの期待」と題してご講演をいただきました。

講演では、INPOが設立された背景とその活動状況について紹介いただき、また、INPOの成功経験等を踏まえ原技協への今後の期待を込めて、次の6つの成功原則を交えて講演していただきました。



▲ Mr. S.M.Berg

- Stick to the mission [原子力安全の確保が第一の姿勢がビジネス成功のキーポイント]
- Maintain credibility [独立した安全組織の地位を維持することが信頼されるキーポイント]
- Focus on operations [発電所の運営面（運転・保守・エンジニアリング・マネジメント）に焦点を当て、卓越性に学ぶ]
- Maintain independent relationships [規制当局等と独立した関係を維持する]
- Recognize importance of peer pressure [仲間同士の切磋琢磨、レビューの重要性を認識する]
- Maintain excellent communication [メンバー間では、サブライズを避け、十分なコミュニケーションを維持する]



docomo/au

こちらのバーコードからNSネット携帯サイトへアクセスできます。



Vodafone

（表紙写真 / 札幌市旭山記念公園のツツジ）

NSnet News No.29 2005年7月発行

〒108-0014 東京都港区芝四丁目2-3 いすゞ芝ビル7階

日本原子力技術協会 NSネット事業部

TEL:03-5440-3604 FAX:03-5440-3607

インターネットで当協会及びNSネット事業部の詳しい活動内容をご紹介します。

<http://www.gengikyo.jp/>



環境省原子力安全推進センター